

ウザワシステム教育研究所

鶴沢戸久子 著

Uzawa Tokuko

# 英語は 歴史から 学べ!

Learn  
English  
from History

国産バイリンガルを  
多数輩出している  
「ウザワシステム」  
無料音声  
ダウンロード付き

織田信長 徳川家康 坂本龍馬 など、おなじみの人物だから

英語力がなくても  
聞きとれる!

今までの常識を覆す  
革新的な学習法

詳しくは裏へ

横浜タイガ出版



読者限定  
プレゼント

時間とお金のムダをなくす「暗記型」英語習得の極意

詳しくは巻末へ

ウザワシステム教育研究所

鵜沢戸久子 著

Uzawa Tokuko

# 英語は 歴史から 学べ!

Learn  
English  
from History

国産バイリンガルを  
多数輩出している  
「ウザワシステム」  
無料音声  
ダウンロード付き

## はじめに

この本を手にとっていただき、ありがとうございます。  
『日本人の小学生に100%英語をマスターさせる法』  
(フォレスト出版刊)を書いたのは、今から約10年前になります。

従来の英語教育とは全く異なる考え方に基づく英語習得の方法と、その方法で育った生徒たちについて書いたこの本は、おかげさまで好評をいただき、ベストセラーになりました。

あれから約10年。

英語習得法のさらなる進化を目指して、日々、生徒たちと歩んでまいりましたが、日本の英語教育は悪化の一端をたどり続けています。

「いつまで経っても、英語ができるようにならない……」  
「いったいどのようにすれば、最短で英語をマスターできるのだろうか……」

それが、私たち日本人のほとんどが抱えている切実な悩みではないでしょうか？

なぜ、いつまで経っても、英語ができるようにならな

いのか？

のちほど詳しく説明しますが、**その原因は旧態依然とした学校の英語教育にある**というのが私の考え方です。

ここで、私たちが学校で英語を習った時のことを少し思い出してみましょう。

線を引いたり、矢印を付いたりして、元の英文を分解して、日本語で理解する。

単語集に出てくる単語をひたすら覚える。

文法書に出てくる文法事項をひたすら勉強する。

**これらが「英語の勉強である」と、みんなが誤解しているのではないのでしょうか？**

こうした状況下で、速いスピードで英文を読み下し、単語集を使わずに、模試で高得点を取る**私たちの教室**（以下、**ウザワ**と表記します）の生徒たちは、友だちから奇異の目で見られることが多いようです。

**学校の英語教育は、これからどうなるのか？**

**大学受験の制度は、どうなるのか？**

先のことは、いっさい分かりません。

しかし、日本の学校教育を超えた「本物の英語力」を身につければ、何が起ころうと対応できるはずです。

いみじくも、ウザワの生徒を「国産バイリンガル」と名づけてくださった方がいるほど、今のウザワでは、まさに「本物の英語力」を身につけた生徒たちが、10年前にも増して育っています（「国産バイリンガル」の定義については、のちほどお話しします）。

さて、もし以下のように言われたら、多くの人はどうのように感じるでしょうか？

- 英語の音を聞く際、意識してきちんと聞く必要はない。
- 英会話集は、英語の学習には向かない。
- 英単語集で単語を覚えると、逆に英語が分からなくなる。
- 一度暗記した英語は、すぐに忘れていい。
- 「ネイティブのような発音」は不要。

これらは、ウザワでは常識ですが、間違った学校教育のせい、世の中では非常識と思われることが多いようです。

やはり間違った学校教育、ならびにその教育で培われた「**間違った常識**」を正さないかぎり、日本の英語教育に未来はありません。

ましてや、この本を読んでいるみなさんの英語力の向上など、望むべくもありません。

私はこれまでに約50年間、英語の教育に携わってきましたが、私が提唱する「**従来と全く異なる英語習得法**」=「**ウザワシステム**」は、この10年間で飛躍的な進化を遂げました。

この本では、直近の10年間で革新的な進化をした、子どもも大人も使える「**本物の英語習得法**」をお伝えしたいと思います。

## ➤ シュリーマンに学んだ 「語学習得の極意」とは？

私が英語を教え始めた頃、たまたま手にした本がありました。

それは『**シュリーマン伝**』（ルートヴィヒ著、秋山英夫訳、白水社刊）という本です。

シュリーマンは当時、神話の伝説にすぎないと考えられていたトロイの遺跡を発掘したことで有名ですが、彼

はまた、**語学の天才**でもあったそうです。

彼はドイツ人でしたが、フランス語、英語、イタリア語など、実に**18カ国の言語に通じていた**と、その本には書いてありました。

しかし、私が非常に興味深く感じたのは、彼が18カ国の言語に通じていたという事実ではありませんでした。

それよりも、むしろ、彼が**外国語を習得したプロセス**についての話が、私に強烈なインパクトを残しました。

シュリーマンはいったいどのようにして、外国語をマスターしたのでしょうか？

そのカギは、一言で言ってしまうと、「**暗記**」でした。

彼は何と**全ての言語を、独学で、原書を暗記することで習得した**のです。

従来の英語の勉強法に大いに疑問を感じていた私は、瞬間的に「**これだ!**」と確信しました。

「原書を暗記しさえすれば、丸々の英語を習得することができる!」と思いました。

たしかに、シュリーマンは天才でしょう。

でも、私たちと同じ人間です。

シュリーマンにできたことは、原理的に、他の人もできるはずで

問題は、**シュリーマンのような天才ではない普通の人々が、どのようにして原書を暗記するのか？**

その**方法論**でした。

そこで、私は生徒が暗記できるように何らかのヘルプをする方法を考え出し、それを**システム化**しようと決心しました。

## ▶ どうすれば効果的に暗記できるのか？

ウザワでは、英文に読みガナを振ったり、日本語の意味を書いたりする、いわゆる「**ウザワ式シート**」を作成し、生徒たちに配布しています。

これは生徒たちが、**無理なく英語を暗記するためのアイテムの1つ**になります。

ちなみに、第2章の**実践編**では、歴史人物20名の英文で、実際に英語を学んでいただきますが、この本でも、その20名分のシートを作成しました。

ぜひ、その効果を実感していただければと思います。

もちろん、ウザワの特徴はシートだけではありません。

その特徴は「(CDなどの) 音声のかけ流し」→「音読」→「意味を取る」→「暗記」という一連の学習プロセスにあります。

特に「音声のかけ流し」にかんしては、日本語で意味を考えながら聞く「聞き流し」とは、大きくコンセプトが異なります。

「音声のかけ流し」は日本語で意味を考える必要はなく、ただひたすら聞くだけです。

「意味を考えずに、ただ聞くだけ？ いったい何の意味があるの？」

ひょっとしたら、そのように感じるかもしれませんが、「音声のかけ流し」の効用、ならびに学習の一連の流れにかんしては、のちほど詳しく説明をしたいと思います。

## ▶「日本語に変換された記憶」では意味がない！

「シュリーマンが原書の暗記によって外国語をマスターした」という話を本で読んだ時、私自身は「そのとおり

に違いない」という確信を持ちました。

しかし、この話を周囲の人々にしても、誰も信じてくれませんでした。

なぜ、私がシュリーマンの話に確信を持てたのか？

それは、大学時代の「ある経験」があったからのように思います。

英語で読んだはずの本の内容も、ネイティヴの先生と  
交わした話の内容も、少し時間が経つと、日本語に変換  
されて、全ての内容が日本語で記憶されている。

みなさんにも、そのような経験がありませんか？

「日本語に変換された記憶では、英語として使えない」  
と感じていた私は、学生時代から、次のように漠然と  
思っていました。

「このままでは、いつまで経っても、英語を使うことが  
できるようになるわけがない。英語でアウトプットする  
ためには、その内容を全て英語で暗記しなければならない  
のだろうか」

そのように感じていた経験があったからこそ、シュ  
リーマンの話がスーッと、私の心の中に入ってきたのだ

と思います。

しかし、いくら直感的に「これが正しい」と思ったとしても、**理論的な根拠**がなければ、意味がありません。

直感的に方法を思いつき、具体的な教材を開発して、生徒に試みる。そして、生徒に使ってみて、実際に効果があったら、そこで理論的に正しいかを追求する。

これが、私のやり方です。

ですから、シュリーマンの方法についても、理論的な根拠が必要でした。

その点で言うと、**シュリーマンの暗記は、最新の脳科学で、その正しさが証明されつつある**ようです。

英語習得で使うのは、何よりも**頭脳**です。

ですから、脳科学は、効率的な英語習得における理論的根拠の1つになりうると言えるでしょう。

脳科学が脚光を浴び始めた頃から、私自身も脳科学関連の本をたくさん読んできました。

中には「ずいぶんいい加減だな……」と感じる本もありましたが、できるかぎり信頼のおける著者の本を読み、そして、現在でも読み続けています。

**脳科学は、効率的な英語学習を追求していくうえで、**

非常に重要なものであると私は考えています。

## ▶ なぜ、シュリーマンは 18の言語を習得できたのか？

そして、もう1つ。私が理論的な根拠として、拠り所  
にしているのが、**ノーム・チョムスキー**です。

チョムスキーをご存じない方のために、簡単に説明す  
ると、チョムスキーは20世紀を代表する言語学者で、  
**言語学に革命をもたらした**とされています。

人間は自然の産物なのだから、人間の脳から生み出  
される言語も、また自然の産物であるはずだ。だか  
らこそ、一見バラバラに見える自然界の森羅万象に  
法則があるように、人間の言語にも、また一定の法  
則があるはずだ。

チョムスキーは、そのように考えました。

つまり、英語、フランス語、スペイン語、中国語、日  
本語など、人間が使う言語は多種多様ですが、そこには  
ニュートンの万有引力のような「**普遍的な法則**」が働い  
ているはずだと、チョムスキーは考えたのです。

この法則を、チョムスキーは「**普遍文法 (Universal**

**Grammar)』**と呼びました。

私がチョムスキーを知ったのは、シュリーマンを知ったのとほぼ同時期のことです。

それ以前に「人類の発祥は、アフリカのエチオピアの高原の1人の女性だった」という話を聞いていた私は、**「もともとは言語も1つで、それが世界に広がるうちに多様化したのだろう」**と漠然と考えていました。

ですから、チョムスキーの理論は、非常に説得力があるように感じられました。

シュリーマンが18もの言語を習得できたのは、まさにチョムスキーが主張する「普遍文法」のためなのではないでしょうか？

## ➤ **言語習得のキーになるのは「音」**

2人の偉人と多くの優秀な脳科学の先生たちのおかげで、今、私は**1つの明確な考え**に至っています。

それを要約すると、次のようになります。

人間の言語は、たった1つの「根」を共有し、何語（例えば「日本語」「英語」）という違いは、地上

に出た「茎」であり、葉っぱや花の違いである。そして、一番大きな言語間の違いは「音」であり、おそらくこれが「茎」に当たるものであろう。そして、単語や文法の違いが葉であり、花であり、実であるのかもしれない。だから、ある言語の「音」を聞けば、確実に、その言語の「茎」が生える。葉と花は、その後に自然に出てくる。

こうした「どんな言語でも、音さえ入れれば習得できる」という私の考え方は、あまり理解されず、今のところ、多くの賛同を得るには至っていません。

しかし、この点を理解していただいた時に、初めて、みなさんの英語学習、ならびに、日本の英語教育に革命が起きる。

私はそのように確信しています。

1にも2にも、言語習得のキーになるのは「音」なのです。

## ▶ 歴史から英語を学ぶ理由

さて、この本の構成は、大きく2つに分かれます。

まず第1章の「基礎編」で、「英語をマスターするた

**めの効率的な学習法** = 「**ウザワシステムの全容**」について、9回（補講を含めて10回。補講は第2章を終えてから読んでください）に分けて、講義形式で説明します。まずは、第1章の内容を十分にご理解いただいたうえで、第2章に進んでください。

**第2章の「実践編」**では、**歴史人物20名の英文**を用意しました。これらで実際に英語を学んでいきます。私の理論に沿って学んでいただければ、きっと、**今までとは違う感覚**を味わっていただけることと思います。

ちなみに、この本では「**日本の歴史**」を教材として扱っていますが、興味を持てるテーマであれば、教材は歴史でなくてもかまわない、というのが私の考え方です。

この本であえて歴史を取り上げた理由は、**あらかじめ内容を知っている方が楽だ**と思ったからです。

例えば、「織田信長」と言われれば、「天下統一を目前に本能寺の変で命を落とした」ということぐらひは、誰でも知っているでしょう。

英語初心者の方にとっては、**日本語による知識がある教材の方がストレスを感じない**はずです。

先ほどお話ししたとおり、言語は自然の産物ですから、**ストレスが少ない方が学習の効果が上がります**。

また、歴史には、人を惹きつける不思議な魔力があります。

昨今の歴史ブームを見ても分かるように、世の中には歴史好きな方が数多くいらっしゃいます。

**歴史好きな方にとって、この本は絶好の英語教材**になることでしょう。

これらの日本史の人物で英語に馴染んできたら、次はぜひ、**英語の原書**にチャレンジしてください。

私に言わせれば、そこからが**「本当の英語学習」**になります。

この本が読者の「英語の悩み」を解決する一助になれば、著者として、これほど嬉しいことはありません。

またこの本が、間違った日本の英語教育に一石を投じるきっかけになれば幸いです。

ウザワシステム教育研究所 鶴沢戸久子



## 英語は歴史から学べ! ●もくじ

はじめに	2
① シュリーマンに学んだ「語学習得の極意」とは?	5
② どうすれば効果的に暗記できるのか?	7
③ 「日本語に変換された記憶」では意味がない!	8
④ なぜ、シュリーマンは18の言語を習得できたのか?	11
⑤ 言語習得のキーになるのは「音」	12
⑥ 歴史から英語を学ぶ理由	13

## 第1章 基礎編

### 講義 1 なぜ、日本人は英語が下手なのか?

① 日本人の英語がなかなか上達しない理由	24
② 日本の英語教育の「致命的な欠陥」とは?	26
③ なぜ、日本人は「音」を軽視するのか?	28
④ 外国人からバカにされる日本の教科書	29
⑤ 「効率の良い勉強」とは?	32
⑥ みなさんは何のために英語を学びますか?	33
⑦ 英語を最も効率良く習得するためのコツ	35
⑧ 従来の英語学習から離れる方法	40

## 講義2 英単語集は今すぐ捨てましょう！

- ①「単語が分かる」＝「英語が分かる」ではない！ ————— 42
- ②覚えた単語を忘れずにいることは可能か？ ————— 44
- ③単語集をボロボロになるまで覚えた人たちの結末 ——— 45
- ④脳はどのようにして英語を覚えるのか？ ————— 47
- ⑤単語を覚えると、逆に英語ができなくなる！ ————— 49
- ⑥潜在的な「単語力」「語彙力」を伸ばす方法 ————— 51
- ⑦「英会話」の勉強は本当に必要か？ ————— 53

## 講義3 英会話集も今すぐ捨てましょう！

- ①英会話にお金をかけてはいけない！ ————— 55
- ②「英会話」ということば自体がナンセンス ————— 56
- ③会話文の「致命的な欠点」とは？ ————— 57
- ④会話文の丸暗記は役に立たない！ ————— 59
- ⑤なぜ、英語で会話ができるようにならないのか？ ——— 61
- ⑥言語はどのようにして生まれたのか？ ————— 63
- ⑦母語と第2言語の決定的な違いとは？ ————— 64
- ⑧「翻訳機の発達」をどうとらえるか？ ————— 65

## 講義4 英語学習に適した教材の選び方

- ①どのような教材で英語を学ぶべきか？ ————— 68
- ②短文の暗記で語彙力を増やしても意味がない！ ——— 70

- ▶ 他人が自分と同じ世界を見ているとはかぎらない — 71
- ▶ 人間の「技術習得プロセス」を知る ————— 73
- ▶ 日本の英語教育の最大の問題点とは？ ————— 74
- ▶ 「全体性のある自然な英語」とは？ ————— 77
- ▶ 大人が英語を学ぶための「最適な教材」とは？ ————— 80
- ▶ 英語を学ぶ「本来の意味」 ————— 83
- ▶ 絶対に外してはいけない教材選びの注意点 ————— 84

### 講義 5 「かけ流し」で英語の音を入れる

- ▶ なぜ、誰も音を聞こうとしないのか？ ————— 88
- ▶ 英語は「音」＝「意味」 ————— 89
- ▶ 「音入れ」を習慣化する3つのポイント ————— 91
- ▶ 「かけ流し」と「聞き流し」の違いとは？ ————— 92
- ▶ 英語の勉強で挫折しないためのコツ ————— 95
- ▶ すぐに結果を求めない ————— 97
- ▶ かけ流しだけでTOEICのスコアが200点アップ！ ————— 98
- ▶ 日本語が英語の獲得を邪魔する仕組み ————— 99

### 講義 6 なぜ、音読が必要なのか？

- ▶ 「音読の効果」とは？ ————— 102
- ▶ 「正しい発音」が身につく秘訣 ————— 103
- ▶ golは「ゴー」ではない ————— 105

- ④なぜ、小学生が大人の文章を読めたのか？ ————— 107
- ④「ことばの役割」に気づいたある出来事 ————— 108
- ④「アメリカ人のような発音」を身につける必要はない！ — 110

### 講義 7 英語の意味を取る

- ④「和訳」と「意味取り」は違う！ ————— 114
- ④スピーキング力とライティング力が身につかない理由 — 116
- ④「訳」とは違う「意味取り」の特徴とは？ ————— 119
- ④最終目的である「暗記」へ ————— 121

### 講義 8 英語を長期メモリーに入れる暗記

- ④人間に共通する「言語習得の脳の働き」とは？ ——— 123
- ④見逃せない「暗記の効用」とは？ ————— 124
- ④ウザワシステムの暗記プロセス ————— 126
- ④自分1人でできる「ウザワ式暗記法」 ————— 127
- ④暗記で気をつけなければならない3つのポイント ——— 128
- ④文法の学習は必要か？ ————— 130

### 講義 9 英文法を学ぶ意味

- ④「文法はいらない」は本当か？ ————— 132
- ④日本人が知らない「英語社会の厳しい現実」 ————— 133
- ④なぜ、ブロークンな英語ではダメなのか？ ————— 135

②「文法不要論者」の論理とは？	137
③英語習得における「一番の難所」とは？	138
④英文法を習得するためのコツ	140
⑤意外と知らない「文法の役割」	142
⑥染め物の価格差はどこから生まれるのか？	144
⑦どんどん間違えていい！	145
⑧「文法の習得に適したテキスト」とは？	147

## 第2章 実践編

②お馴染みの歴史人物で英語を学ぼう！	152
① 卑弥呼	156
② 紫式部	160
③ 源頼朝	164
④ 武田信玄	168
⑤ 織田信長	172
⑥ 豊臣秀吉	176
⑦ 千利休	180
⑧ 徳川家康	184
⑨ 宮本武蔵	188
⑩ 大石内蔵助	192
⑪ 葛飾北斎	196

12	吉田松蔭	200
13	西郷隆盛	204
14	坂本龍馬	208
15	土方歳三	212
16	渋沢栄一	216
17	夏目漱石	220
18	吉田茂	224
19	松下幸之助	228
20	田中角栄	232

## 補 講 全てはアウトプットのために

①	「英語ができない」とはどういうことなのか？	238
②	人間には「2つの記憶」がある	238
③	「記憶の正体」とは？	239
④	日本語と同じレベルで英語を使いこなすには？	242
⑤	「英語で書く」とはどういうことか？	243
⑥	ライティング力を高める方法	244
⑦	なぜ、日本人は英語の習得に固執するのか？	247
⑧	まずは日本語を大切に	248
	おわりに	252

## 第1章

# 基礎編

今から「**ウザワシステムの英語習得法**」について、解説します。1度で理解しようと思わず、大まかでいいので、まずは勉強の「全体の流れ」を把握してください。

